

文化財だより 第166号

- 開館 15 周年！旧赤松家記念館
～新たな“〇〇”紹介～ … P1～2
- いわたのこんなお話 竜洋編③ 福長飛行場 P3
- いわたホッとラインに登録しませんか？ … P4
- コラム『能登の棚田』大村至広 …… P4

磐田市教育委員会教育部文化財課 平成 31 年 1 月 1 日発行

開館 15 周年！ 旧赤松家記念館 ～新たな“^{まるまる}〇〇”紹介～



今年開館から 15 周年をむかえる旧赤松家記念館は、県指定文化財のレンガ造りの門や塀をはじめ、オランダで造船技術を学び、多くの軍艦の設計や建造をおこなった「日本造船の父」赤松則良や赤松家に関わる数々の展示品を公開し、これまでに 20 万人を超える方に来館していただいています。

今回の特集は、新たな“〇〇”が加わり、より魅力を増した旧赤松家記念館です。

新たな“^{びわ}展示” 1 ～赤松則良奉納の琵琶～

下の写真は、明治 35 年（1902）、菅原道真の千年忌に則良が見付天神に奉納した琵琶です。破損し、演奏ができる状態ではありませんが、その分、琵琶の内部に直接書かれた記録を見ることができます。その記録によると琵琶は、正保 4 年（1647）



に作られたもので、文化 3 年（1806）に修理していることが分かりました。琵琶の入れ物の蓋には則良の名と「奉納」の文字が記されています。

また、琵琶を奏でるための撥、楽器を調律するための道具（^{りっかん}律管）も展示しています。琵琶とあわせてぜひご覧ください。

赤松則良奉納の琵琶

新たな“展示”2 ～天皇家ゆかりの銀の盃～



大正天皇即位恩賜の銀盃

旧赤松家記念館和室では、昨年からおこなっている特別展『天皇家 徳川家ゆかりの品々』の展示替えをおこないました。新たに加えられたのは、大正天皇即位の折に赤松則良が賜った三組の銀の盃です。いずれも盃の中央に、天皇家の紋である菊があしらわれています。

新たな“通路” ～より多くの人利用しやすい道へ～

展示だけでなく、通路も新しくなりました。北入口から水屋前までの通路の補修工事を行い、路面が平らになり、歩行者はもちろん車いすやベビーカーの利用者にも優しい通路になりました。

新たな通路
(南から撮影)



新たな“パンフレット” ～よりわかりやすいパンフレットへ～

小・中学生にもわかりやすいパンフレットを作成しました。写真やイラストを多く使い、則良の功績や旧赤松家記念館の建物のことなどを分かりやすく説明しています。地域学習や幕末・維新の歴史学習にもおすすめです。

パンフレット



新たな“思い出作り” ～思い出を旧赤松家記念館で！～



旧赤松家記念館の魅力は、展示品はもちろんのこと、赤レンガの門や塀、蔵・庭園も挙げられます。

近年、結婚式や成人式の前撮りにも利用されています。たまたま立ち寄ってスナップ写真という方もたくさんいらっしゃいます。旧赤松家記念館で、新たな記念、思い出をつくってみてはいかがでしょうか。

則良像と内蔵 しっぺいのパネルと記念撮影もできます。

お問合せ

旧赤松家記念館 **入館無料**

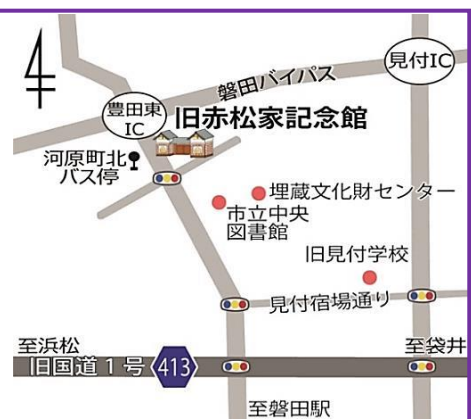
住所 磐田市見付 3884-10 電話番号 0538-36-0340

時間 午前9時～午後4時30分

休館日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始



市ホームページで、「旧赤松家だより」公開中！ぜひご覧ください。





今から 100 年前の大正 8 年 (1919)、磐田に飛行場が作られたのをご存知ですか？
今回は、竜洋地区の河川敷に作られた飛行場、福長飛行場について紹介します。



左から福長五郎・四郎・浅雄
『郷土読本ふるさと竜洋改訂版』
から転載

福長浅雄と飛行技術

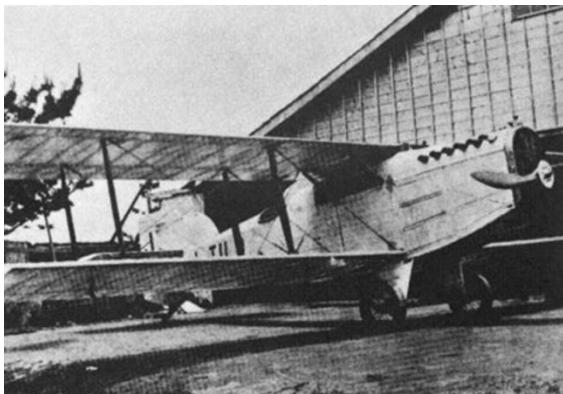
飛行場を設立した福長浅雄は浜名郡飯田村（現在の浜松市南区大塚町）に生まれました。明治 43 年 (1910) 徳川好敏^{よしとし} (※) の日本人初飛行を知ると、浅雄は埼玉県所沢に行き、徳川好敏の助手として飛行機の組み立て、調整方法などを学びました。その後、大正 7 年 (1918) 千葉の伊藤飛行研究所の門下生となり、飛行技術を習得しました。

(※) 徳川好敏 フランスで飛行機操縦技術を習得後、代々木練兵場にて日本国内初飛行を成功させた。日本航空界の先駆者。

福長飛行場を作る

大正 8 年 (1919)、福長飛行機研究所を今の磐田市掛塚の天竜川左岸河川敷に設立し、飛行機の製作や飛行士育成のために、約 4.3 平方キロメートルの福長飛行場を作りました。飛行訓練生が 14、5 人おり教官には浅雄の弟である四郎・五郎があたっていました。

天竜川河口への建設は、東京と大阪の中間地点である点、天候不良の際にも海岸線に沿って低空飛行で河口を目標に安全に着陸できるという点で選ばれました。



日本初の 6 人乗り旅客機「天竜 10 号」

2 年あまりの期間を経て、大正 11 年 (1922) には、日本初の 6 人乗り旅客機「天竜 10 号」を開発しました。全長 9.4 メートル、全幅 12.95 メートルの機体は、時速 180 キロメートルで空を飛ぶことが可能でした。

天竜 10 号

『空駆けた人たち 静岡民間航空史』から転載



関東大震災時の活躍とその後

飛行家として知られた福長兄弟は、大正 12 年 (1923) の関東大震災時には、通信の確保、物資の輸送に活躍をしました。

その後、福長飛行場は昭和 3 年 (1928) 天竜川改修工事により閉鎖され、浜松へと移転しました。現在、竜洋地区にあった飛行場の跡には看板が立ち、飛行場と福長兄弟の功績を伝えています。



いわたホッとラインに登録しませんか？

文化財課では、磐田市のメール配信サービス「いわたホッとライン」で歴史・文化財情報をリアルタイムで配信するサービスを行っています。文化財課主催の展示会・講座など、さまざまなイベント情報をお届けしています。

< 登録方法 >

entry@hotline.city.iwata.shizuoka.jp へ空メールを送信後、登録画面にアクセスするためのメールが返信されたら、画面に従って登録をして下さい。歴史・文化財情報発信希望の方は『メールマガジン 磐田の歴史・文化財』という項目をチェック！QR コード読み取り可能の携帯電話をお使いの方は、右 QR コードをご利用ください。



QR コード

昨年は、企画展、講演会、特別展示の開催案内のほか、かすりの着物体験や絵の募集などの案内を配信しました。



昔の授業体験



歴史文書館の展示



企画展講演会

文化財だより合冊版の販売開始についてもご案内しました



©磐田市

職員リレー コラム

能登の棚田

大村 至広

能登半島北側の海岸線沿いにそれはあった。石川県輪島市の国指定名勝「白米千枚田」である。緑剛崎から西へ車で1時間余り走らせて到着した。

展望台から全景を眺め、田んぼまで下りて間近でも見学した。思っていたより広い。

別に棚田マニアという訳ではないが、自分の目で見たいと思ったのは20年ほど前にさかのぼる。中世史の大家、網野善彦の著作で能登を特徴づける景観として紹介されていたことによる。

名勝だとか世界農業遺産だとか…、それらは抜きにして肌寒い曇り空の下、ただ見入った。磐田とは全く異なる風土・歴史、この地に生きた人の努力や情熱などが頭にめぐった。

…感動がうまく伝わらないのは当方の文才がないことによる。ご容赦いただきたい。



田植え後の白米千枚田（平成30年6月下旬撮影）

編 開館15周年！この機会に旧赤松家記念
集 館に行ってみませんか？初公開の館内の
後 展示は勿論、お庭や内蔵ギャラリーの展
記 示もお楽しみください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699



©磐田市

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 **磐田市 文化財だより** **検索**